

2022 年度第 4 回 災害対策委員会会議

開催日時：2023 年 3 月 15 日（水）20:00～20:45

開催場所：ZOOM

参加者：山根 雅樹、宮崎 郁英、佐俣 英昭、都丸 美知夫、橋本 悟志、柴崎 純一

議長：山根

書記：山根

<議題>今年度の事業内容と活動費の確認、次年度事業計画について

(1) 透析医療機関における優先的水道水の確保について

昨年 1 月下旬より活動を開始し、前橋市と高崎市においては体制の整備が完了した。また、これを機に前橋市と高崎市の水道局は災害拠点病院や救急指定病院に対して、受水槽の位置や進入路などの現地確認を実施した。

(2) 関東甲信越臨床工学技士協議会主催災害時伝達訓練参加

県内の透析施設へ報告書郵送済。訓練参加率 85%

(3) 第 46 回群馬県透析懇話会演題発表

「当会における災害対策の現状 ～第 7 報～」

(4) 第 7 回透析医療確保に関する広域連携会議について

正式名は「広域関東圏連携会議」となった。

設置要綱や緊急連絡網が整備された。正式な構成メンバーとなっている埼玉県、群馬県、栃木県、東京都、新潟県その他、オブザーバー参加していた神奈川県、千葉県、茨城県について正式なメンバーとなるか各県で相談していただく。緊急連絡網であるメーリングリストにはオブザーバーの県も追加しておく。

(5) セミナーの開催

第 6 回群馬県血液浄化セミナーを 10 月 23 日に開催した。内容は以下の通り。

① 北海道における新型コロナウイルス感染症対応として医療機関への業務支援事業について

講師：札幌医科大学附属病院 臨床工学部 橋本佳苗様

② 東日本大震災から 10 年を経て、次世代の臨床工学技士へ伝えたいこと

講師：公益財団法人 星総合病院 臨床工学科 氏家 憲一様

(6) 日本臨床工学技士会主催の災害対策研修会に参加

2022 年 11 月 27 日（日）御茶ノ水ソラシティにて開催された。災害医療概論やコロナ禍での災害対応、病院の業務継続についてグループワークを踏まえ深く学ぶことができた。

(7) 県医務課主催の透析災害伝達訓練については名簿の更新作業を実施した上で 3 月 10 日に実施した。災害

情報ネットワークへの登録は 16 施設であったが、FAX で県へ報告するルートもあり

そちらの集計結果については県から後日報告をしていただく予定である。

予算：80,000 円

支出：通信費等 13,387 円、消耗品費 4,980 円、

支出計：18,367 円

差し引き：61,633 円

その他研修参加費（災害対策研修会）

令和 5 年度予算案 50,000 円（メンバーの増員と研修参加を見込むため）

令和5年度事業計画案

(1)透析医療機関における優先的水道水の確保について

太田市や伊勢崎市の市役所や水道局へ出向き、要望書の提出を前提とした話し合いを進めていく。

(2)給水訓練について

前橋市水道局との話し合いでは毎年訓練を実施しましょうという話しになっている。

透析医療機関にこだわらずに救急指定病院等での開催も検討していく。

(3)関東甲信越臨床工学技士協議会主催災害時伝達訓練への参加

9月1日（金）に実施予定。

(4)第47回群馬県透析懇話会演題発表

「当会における災害対策の現状 ～第8報～」あるいは「優先的水道水の確保について」の進捗状況の報告。

(5)広域関東圏連携会議

今年度は整備された連絡網等を使用して訓練が開催される見通し。

今回は東京都が当番幹事となっている。

(6)セミナーの開催

学術大会用のデータまとめ

県の災害対策の現状？

(7)日本臨床工学技士会主催の災害対策研修会への参加検討

(8)県医務課との関係について、対面での顔合わせを検討したい。

(9)JHAT（日本災害時透析医療協働支援チーム）の研修への参加検討

(10)中長期計画として

優先的水道水の確保は対象市町村全て。

給水訓練も対象市町村全て。透析領域以外の災害対策について少しずつ検討していく。

○まとめ

・コロナ禍での透析受け入れ状況について、どのような状況であったのか県で報告会を設けていただけないか提案していく。

・今年1年間を振り返り、それぞれの事業の達成度を評価する。（次回会議で報告）

・来年度も様々な活動が見込まれるので役割分担していく。

・日本臨床工学技士会災害対策委員会情報コーディネーターの登録を推進していく。

次回予定

開催予定日：2023年5月

開催予定場所：ZOOM

以上